

はじめに

平成 24 年 10 月に京都大学の山中伸弥教授が、iPS 細胞の開発により、我が国において 25 年ぶり二人目となるノーベル医学生理学賞を受賞されました。このことは、医学・生命科学に関する教育、研究及び医療実践者に対する総合的な学術支援を行うことを主たる事業とする本財団として、大変喜ばしい出来事であるとともに、今後この方面の研究がさらに発展していくことを期待する次第です。

本財団においては、平成 23 年度から取り組んでまいりました公益財団法人移行のための準備がついに実を結び、内閣府公益認定等委員会から認定に関する答申が公表されました。平成 25 年 4 月 1 日からは「公益財団法人 昭和大学医学振興財団」として新たな船出をする予定です。

本財団では、公益財団法人 1 年目となる平成 25 年度事業計画を、以下の通り立案致しました。主たるところでは、昨年度以前から実施してまいりました「医学研究助成事業」を、これまでの昭和大学医学部を対象にしたものから全国公募に拡大する形で継続いたします。また、公益財団法人としての体制を整えると共に、新たな公益事業の展開を検討いたします。

本年度も、引き続き関係各位のご協力をお願い申し上げます。

理事長 安原 一

平成 25 年度 事業計画の概要

1. 公益財団法人としての体制整備

平成 25 年度から公益財団法人に移行することに伴い、法人としての体制整備を致します。

これは、新法人としての移行登記や、新たな監督官庁である内閣府に対する各種届出を行うほか、公益財団法人として必要な事業報告や会計処理などを行うことでもあります。また、公益事業を全国的に展開するにあたり、ホームページのリニューアルやリーフレットの作成などを行います。

2. 医学研究助成事業の拡大展開

平成 25 年度は例年行ってまいりました医学研究助成事業を、昭和大学医学部に限定した事業から全国公募による公益事業に拡大し実施致します。

生命科学全般への発展が期待できる、優れた研究に助成するという理念は継続しつつ、助成件数を増やすことで、公益財団法人としての責務を果たします。

3. 新規事業の実施検討

平成 25 年度以降の新たな事業として、優れた医学教育及び多職種協働による医療の実践者の顕彰、創造的な研究業績をあげた研究者の顕彰等について検討を行います。この他、学術交流に対する援助の方策について検討を行います。これらのことにより、医療・生命科

学に携わる方々の意欲向上に貢献することができると考えます。

4. 寄付募集活動の充実

本財団は、これまで学校法人昭和大学からの寄付金を主たる財源として活動して参りました。平成 25 年度からは、この他にも公益財団法人として安定した事業を展開できるよう、寄付募集活動を充実させて参ります。